

フランクリン文庫



ロブリエール家文書

1974年収蔵。洋書 18,200冊。

古典文献のリプリントで知られるバート・フランクリン（Burt Franklin, 1903-1972）の個人コレクション。コレクションの中には、クレチエンチの『農業便宜論』（1471）やアウグスティヌスの『神の国』（1489）などのインキュナブラも含まれている。図書は、フランス、イギリスの経済学・社会思想関係の古典が中心で、ゴールドスマス・クレス文庫に所蔵されていない文献が数多くある。特にティレルの『パトリアルカ・ノン・モナルカ』（1681）や、エルヴェシウス『精神論』（1758）に合冊された『精神論』に関する当時の資料などは稀覯な文献である。

パンフレット類は、フランス、イギリス関係のものが主で、特にその大半を占めるのはフランス革命（1789）前後の法令等のパンフレットである。

マニュスクリプト類の中には、13世紀の南仏ラングドックの土地賃貸契約書にはじまって、マグナカルタの写本2点（14世紀）、メディチ家の帳簿、チュルゴの筆跡のある書簡、フーリエ、E. カベール、J. B. セーの書簡などが含まれている。中でもフランスのロブリエール家文書（14-18世紀）27冊は体系的なもので、中世の封建諸侯の歴史を研究する上での重要な史料と考えられる。